

シグマ研究委員会

昭和59年度第4回運営委員会議事録

日 時 昭和59年9月14日(金) 13:30～17:30
場 所 原研東海研 研2-221号室
出席者 原田(委員長, 原研), 梶山(東北大), 中沢(東大炉), 村田(NAIG),
五十嵐, 菊池, 長谷川, 松浦(原研)
オブザーバ: 川合(NAIG), 鹿園, 田村, 浅見(原研)

配布資料

1. 前回(59.7.20)議事録(案)
2. シグマ研究委員会・会合開催及び旅費使用状況
3. 1984年核データ研究会ポスターセッション検討会議事録
4. 1984年核データ研究会プログラム実行委員会第4回会合議事録
5. 1988年核データ国際会議準備小委員会の答申
6. 核データニュース検討小委員会議事録(案)
7. FP核データWG作業報告
8. 中重核データサブWG, 1984年第2回(拡大)会合
9. JENDL-2炉定数の非分離共鳴領域の処理誤差
10. 諮問・調整委員会への依頼
11. 核構造データWG

議 事

1. 前回議事録確認
資料1について確認を行い, 一部の字句の訂正の上了承された。議事録に関連して, 学会特別会合の講演のうち「 ^{232}Th の崩壊熱の測定及び解析」は「崩壊熱測定の現状」と変更されたとの報告があった。
2. 事務局報告
 - (1) 原田氏から第14回INDC会合(10/1～5, ウィーン)に出席するに当たり, 主要議題について報告があった。
 - (2) プロGRESS・レポートの作成状況について報告があった。

(3) 本年度のシグマ委の旅費の使用状況について、資料2により浅見氏から報告があった。

3. 研究会プログラム・実行委員会報告

五十嵐氏から、資料3により研究会のポスターセッションの準備状況ならびに資料4によりプログラム・実行委員会の第4回会合について報告があった。また、中国・韓国からは未だ返事が来てないとの説明があった。

原田氏から、外国人の参加についてはもっと早くから呼びかける必要があるのでは、来年度はどうかを検討しておきたいとの話があり、討議を行った。その中で、国際的な形のものと同国内だけのものを交互に2年毎に行ったらどうかとの意見があったが、少なくとも来年度はアジア地区を含めた会合にすることにし、その後は別途検討することにした。

4. 1988年国際会議準備小委員会報告

資料5にもとずき、五十嵐氏から、1988年国際会議の準備小委員会からの答申の説明が行われた。主な内容は、原研主催で1988年5月に行うのが適切であること、検討のために準備委員会、組織委員会、プログラム委員会を作ることなどであり、運営委員会で準備委のメンバーを決め、スコープを検討して貰いたいとの説明があった。これに対して、原田氏から次回に準備委メンバーの案を出したいとの話があった。

5. 核データニュース検討小委員会報告

浅見氏から資料6にもとずき9月10日の検討小委員会の概要について報告があった。この中で次回(10月11日)の会合で議論の結果をまとめて答申案を作成し、次回の運営委員会に提出する予定であるとの説明があった。これに関連してクイックニュースの扱いと広報活動とをどう両立させるのか等について質疑応答が行われた。

6. WG活動報告

(1) 核構造データWG

田村氏から資料11にもとずき、核構造データWGの質量チェーンの評価の現状、今後の予定等について報告があった。これに関連して、ENSDFのリクエストに対する処理の状況、利用の現状等について質疑応答が行われた。

(2) FP核データWG

川合氏から資料7により、JENDL-2のFPのファイル作成作業の進捗状況について報告があり、FPファイルは10月末に完成との説明があった。また、

菊池氏からファイル化の進行状況の詳細について補足説明があった。これに対して JENDL-3 への改訂はどうするのか等の質疑応答が行われた。

7. 諮問・調整委員会への付託事項

五十嵐氏から資料 10 により 59 年度に諮問・調整委員会へ検討を依頼する事項について説明があり了承された。諮問事項は(1) JENDL-3 以後のシグマ研究委員会の活動対象, (2)核データの国内活動の強化と拡大について行うべき事項であった。

8. JEF, ENDF/B との協力について

菊池氏から資料 8 により 7 月 12 日の中重核データサブWGでの JENDL-2 の status review の概要とともに重要中重核の Fe, Ni, Cr の共鳴パラメータはデータの交換で JEF のものを採用したいとの説明があった。これに関して討議が行われ、次のような意見がでた。

- GNASH コードによる計算は各WGでやっていてオーバーラップしている。
- JEF のデータを採るのは問題である。
- 諮問・調整委でも JENDL に JEF を採り込めとの意見があった。
- それは JEF を採り込むのではなく、JENDL が採り込まれることになる。
- 予算上の点からも JENDL-3 は JEF とは別個に作って貰わないと困る。
- JENDL-3 が公開の方針なら、JEF から採ったデータを除いて公開しなければならない。
- 公開されたレポートから採るのは良いが、JEF, ENDF/B から採ったと言う表現はまずい。
- これは評価者の判断の問題であって、JEF 等との協力とは別の問題である。
- 協力の見地からは、JEF とも ENDF/B とも同等に協力した方が良い、国際協力はもっと視野を広く見た方が良い。

これらの討議から、JEF 等との協力関係は JENDL-3 の作成とは別個に考えるべきとのことになった。

この議論は、次回に東京地区在住の WG リーダを加えて再度行うことにした。

9. JENDL-2 炉定数の非分離共鳴領域の処理誤差

菊池氏から標記の件について資料 9 にもとずいて説明があった。

次回は 10 月 19 日 (金) 午後、東京本部で行う予定。